発行者　若松隆英
総代会
印刷者　奥山印刷

御開帳を終えて

住職　**若松隆英**

日本全国津々浦々の皆様、あけましておめでとうございます。皆様ご清栄にて新年をお迎えの事と存じ上げます。昨年も皆様には大変お世話になりました。

朝日寺にとって２０１４年は大事な節目の年でした。何と言っても四月に御開帳がありました。御開帳は三十三年に一度の朝日寺にとって一番大きな行事ですが、役員を中心に多くの方々のご協力を頂き、たくさんのお参りの方で賑やかに無事遂行することが出来たことは、この上ない喜びです。四月の御開帳法会について詳しくは後の記事をお読み頂くとしまして、今回の御開帳は前回の御開帳（昭和五十六年）からの三十三年間を振り返り、また次の御開帳までの三十三年間を見通す機会でもあります。

過去を振り返りますと、日本は平和な時代が続き、経済も発展、その流れに乗って朝日寺も随分と境内が整い、年中行事も充実したように思います。しかしこれからの三十三年を思うと地域の過疎・少子高齢化は一段と進み、空き家がさらに増えていくのは間違いありません。国も危機感を持って地方創成と掛け声をかけてはいますが、どうなるものでしょうか。考えてみれば三十三年前の御開帳では地域の一大行事という感じで、地域の人の手によってカラオケ大会などが催されたものでしたが、昨年の御開帳では情報発信の甲斐もあってか地域外からのお参りが過半数を占め、初めて朝日寺に触れた方が多かったのです。これもひとつのヒントとして、朝日寺も檀家の皆様の様々な声によく耳を傾けながら積極的にこれからの時代を乗り切って行きたく、強い決意で臨みます。

何年も前から検討や準備を積み重ねてきた御開帳ですが、その２０１４年は終わりました。しかし、今年はまた我々高野山真言宗の檀信徒にとって記念すべき年です。お大師様が高野山を開かれて１２００年を迎えるのです。四月～五月には「高野山御開創一二〇〇年記念大法会」として高野山では連日様々な法要や催しが行われます。朝日寺にとっては御開帳という行事が迫っていたため、これまであまり積極的に御開創千二百年については声掛けをしてこなかった（出来なかった）のですが、これも何年も前から高野山はもとより全国各地で「お待ち受け法会」等の盛り上げイベントが行なわれてきました。現在は開創法会を目前にして、お大師さまの『飛行三鈷杵』と高野山の『聖燈』が全国をリレーで回っているところで、朝日寺にも二月三日（火）の節分会に合わせてやって来る運びとなりました。お大師さまをより身近に感じて頂ける大変貴重な機会です。また、この開創一二〇〇年の記念すべき年に、日帰りの強行軍ではありますが、五月下旬（編集時点では未定）に高野山団体参拝ツアーを予定しています。千二百年の歴史に浸りながらお大師さまの見守りを肌に感じて頂ければと思います。

目を世に転じてみますと、昨年もいろいろな社会現象・ニュース・事件がありました。年々世知辛さを思い知らされるニュースが多い中、『児童連れ去り事件』を昨年は特に度々目にした気が致します。思えば私の孫の学校セキュリティ事情を聞いても、一昔では考えられないことばかりです。通学は見守り隊の方にきっちり守られて、地域の人と登下校中に触れ合うことはなく、運動会も保護者等の招待客しか入れないように厳重に守られ、写真やビデオを撮ってもブログには載せてはいけない、等々。昔は登下校や学校行事にこそ地域の人との触れ合いがあり、その中でいろんなことを教えてもらったような気がしますが…。一部の不届き者のせいで、そういう貴重な機会のない世の中になってしまったのでしょうか。こうなれば大切な事は家庭の役割になるのですが、核家族化で子供たちがお年寄りと接する時間も明らかに減っています。これは宗教教育の観点からも大きな問題であります。我が家の仏事・祭事をいかに子供達に伝承していくか、私、住職の立場からももちろんですが、檀信徒の皆様にもそういった事を機会がある毎に子や孫に伝えていく心掛けを持って頂きたいと存じます。

また昨年はソチ冬季オリンピックとブラジルワールドカップがありました。四年に一度の舞台に向かって懸命に練習を重ねてきた選手たち。そこで成果が出せた選手もいれば、思うように行かず悔しい思いをした選手もいることでしょう。ではまた四年後に、と言っても選手生命には限りがあり、次のチャンスがあるとも限りません。朝日寺の御開帳は三十三年に一度ですが、次回を考えると私は九十九歳…チャンスがあるかどうか分かりませんが、私はおかげさまで今回の御開帳は本当に良い法会ができたと思っております。これからの三十三年に向けて朝日寺がより良いものになりますように、また皆様のご健勝を祈念して新年のあいさつと致します。

南無大師遍照金剛　合掌

新年を迎えて

総代長　**清水　佐伯男**（きみお）

新年明けましておめでとうございます。良いお年をお迎えのことと存じ上げます。昨年は朝日寺にとっても檀家にとっても記念すべき年でありましたが、例年二月三日に行なわれています節分会では、皆様にローソクに交通安全や、家内安全、など色々願いを込めて書き込み、住職の読経により一年の無事を祈って頂きました。寒い日でしたが多くのお参りを頂きました。

平成２６年４月５日（土）と６日（日）に薬師如来御開帳が３３年ぶりに行なわれました。心配致しておりましたお天気の方もどうにか持ってくれて大切な行事ができました。可愛いお子さんの稚児行列や近隣の住職の法要・法話があり、開帳オリジナルグッズの御接待、また西の駐車場（新境内地）では牛窓バーガーやたこやき、焼き芋などの屋台村、甘茶やうどんの御接待、そして子供が遊べるアミューズメント等用意致し、多くの方のお参りをいただきました。お参りの皆様には４月５日・６日の二日間お薬師様に願いを込めて頂けたものと思っております。この御開帳には総代さん、婦人部、御詠歌隊の皆さんには大変お世話になりました。また檀家の皆様にも多大なご協力を頂き有難うございました。おかげさまで盛大で多くの方の記憶に残る御開帳が出来ました。重ねて厚く御礼申し上げます。

他にも昨年朝日寺にはおめでたい事がございました。四月に副住職ご夫妻の間に女の子が生まれました。檀家といたしましても成長が楽しみです。元気に育ってほしいです。

七月二十日に行なわれました「よみあげ」〈投げ銭供養 市指定無形文化財〉には暑い中多くの方のお参りで、瀬戸内市教育委員長の淵本晴生先生から子育てについての講演がありました。戦没者の供養・初盆の方の供養が住職の読経により行なわれ、お名前を呼ばれるとお賽銭が投げられます。毎年見ていますが実に豪快なものです。

八月十五日にはお盆の締めくくりとして、初盆の方の供養が夜八時より行なわれ、多くの方が提灯を持って来られ、蝋燭に灯をともし住職の読経により、ご先祖の精霊をお送りしました。毎年多くの方がお亡くなりになられますが寂しいものです。

例年秋に行なわれています寺巡りのバス旅行ですが、昨年は十一月二十六日に『神戸団体参拝ツアー』と題して須磨寺や近隣のお寺の参拝、その他観光を致しました。参加者は七十七名で前回より少し減ったものの、余所のお寺の中を見ることもでき、楽しい旅に檀家同士のコミュニケーションも進み、大変有意義な行事です。

大晦日の除夜の鐘には近所の方を中心としたお参りを頂き、鐘をついて皆さんで新年をお迎え致しました。

最後になりましたが、昨年より護寺費（総代会の年会費のようなもの）を一律５０００円にさせて頂きました。ご協力ありがとうございました。これからもご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年も朝日寺ではいろいろな行事計画があります。平成二十七年が檀家の皆様にとって最良の年であります様、お祈りいたします。